

本市では2022年度末(令和4年度末)の北陸新幹線敦賀開業に向けた受け皿づくりとして、官民連携による金ヶ崎周辺の整備により、敦賀港エリアの更なる観光拠点化を目指しています。

敦賀市概要 (2019.3.29時点)

◆市域面積 : 251.34 km²

◆人口 : 65,565 人

◆世帯数 : 28,653 世帯

◆昼夜間人口比率 101

◆年代別人口構成

年代	男性	女性
90以上	333	960
80代	1752	2898
70代	3474	4078
60代	4646	4604
50代	4224	4045
40代	4774	4589
30代	3725	3540
20代	3255	2782
10代	3248	3100
0代	2867	2671

【フェリー航路】
苫小牧・秋田・新潟

【北陸新幹線】

【車】大阪120分/京都90分/名古屋90分

◆北陸新幹線開業前後の所要時間

①金沢間 84分⇒約45分(未定)

②長野間 149分⇒約102分

③大宮間 204分⇒約161分

◆近隣主要都市への車両移動所要時間

①名古屋約90分 ②京都約90分 ③大阪約120分

【詳細次頁】計画地敷地図と計画地周辺の将来イメージパース

計画地 P 約100台

60台

整備コンセプト
『敦賀ノスタルジウム』
(ノスタルジー+ミュージアム)

- ・エリア全体を博物館に見立て、現存する遺構を有効活用
- ・昭和初期の擬洋風景観を再現し、古き良き敦賀を可視化
- ・「命」と「平和」の大切さを伝える郷愁+人道のストーリーづくり

敦賀市中心市街地図

桜の名所・恋の宮 金崎宮

クルーズ客船

金ヶ崎周辺エリア

緑地

資料館の整備

赤レンガ倉庫

【重文】市立博物館

博物館通り

相生商店街

駅前商店街

【重文】木造朱塗大鳥居

松本零士作品モニュメントシンボルロード

町家と石畳の景観

凡例

- 計画地 約3,000m²
- 主要施設等
- 重点景観形成エリア約7.7ha
- 駐車場
- 中心市街地エリア 約160ha
- レンタサイクル駅主要位置
- 周遊バスルート

計画地までの移動手段

1 JR敦賀駅から

徒歩	自転車	周遊バス
30分	12分	11分 ※1本/1h

2 敦賀ICから 8分

新幹線2023春開業予定

【詳細次頁】計画地周辺の整備<金ヶ崎周辺施設整備基本計画>の概要

- 実施する予定の事業
 - 資料館『人道の港敦賀ムゼウム』の整備【官主導整備】
 - ・杉原千畝の発給した通過ビザにより逃れたユダヤ人は敦賀に上陸。
 - ・一連の歴史や敦賀の人々が行ったおもてなし等を発信する施設。
 - ・施設外観は昭和初期に実在した敦賀港関連施設を復元する。
 - 鉄道遺産(旧敦賀港線)の活用
 - ・蒸気機関車乗車体験等が可能となる施設の整備方針を定める。
 - 物販・飲食機能の整備
 - ・上記の公共施設整備に合わせた民間活力の参入を目指す。

- 整備スケジュール

	2019	2020	2021	2022	2023
(1) ムゼウム整備	工事・オープン準備	供用開始			
(2) 鉄道遺産		測量・設計等	工事等		供用開始
(3) 物販・飲食	ニーズ調査・募集		工事等		

- パブリックコメントの結果(サンプル数58件)
 - ◆ 計画の印象は良い 74%
 - ◆ 金ヶ崎に必要な機能(複数回答)

飲食機能	物販機能	宿泊機能	体験機能	休憩施設
60%	34%	22%	24%	39%

詳細は市HP

金ヶ崎周辺及び本市の観光入込客数(数値目標等)

◆基準年度 2014(H26)年度 ★目標年度 2020(H32)年度(敦賀市総合計画より)

年度	金ヶ崎周辺エリア	中心市街地エリア	敦賀市観光入込客数
H26	902.7	41.8	1,818.0
H27	1,018.9	168.1	2,049.0
H28	1,265.1	355.9	2,234.1
H29	1,191.4	296.4	2,228.1
H32 (R2)	1,098.0	396.0	2,240.0

*金ヶ崎周辺の施設入込客数(H29 単位:千人)

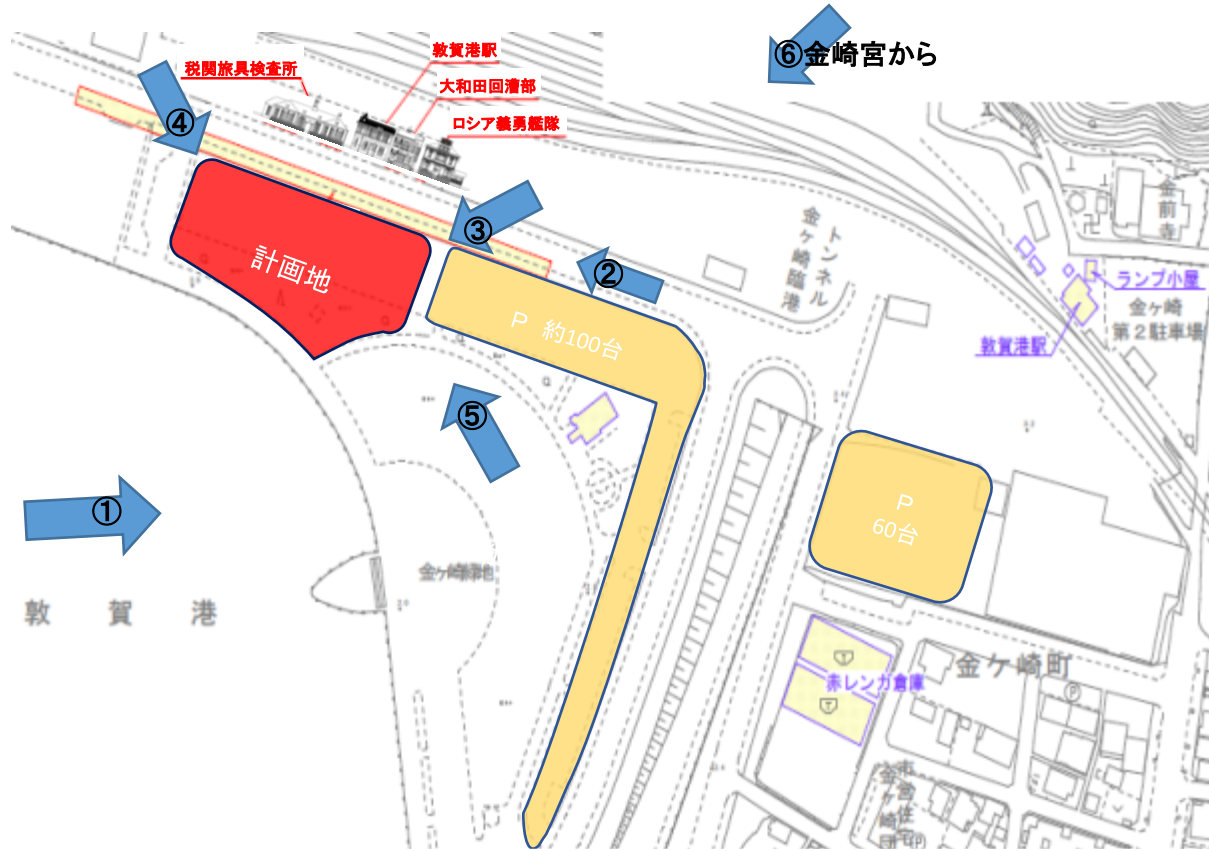
- ・敦賀赤レンガ倉庫 149.9
- ・ランプ小屋 9.7
- ・人道の港敦賀ムゼウム 57.8
- ・ミライエ 51.9
- ・敦賀鉄道資料館 27.1
- ・合計 296.4

金ヶ崎周辺における民間による取組内容

- 民間団体「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会
 - ・観光客の激減する冬季における誘客イベントの実施。
 - 夜の景観を演出
敦賀港イルミネーション ミライエ
11/3~12/25(53日間) 18:00~22:00
動員数 56,000人(2018年実績)
- 敦賀国際文化交流フェスティバル実行委員会
 - ・港まち敦賀の関係諸国(ポーランド、リトアニア、オランダ、イスラエル等)の文化に触れるイベントを開催。
 - 敦賀国際文化交流フェスティバル2019-敦賀「人道」の歴史と文化交流の継承-
11/9~11/10
 - ・団体構成員 NPO法人THAP(タップ)
赤レンガ倉庫指定管理者(株)丹青社 他

計画地敷地図と計画地周辺の官による整備予定《金ヶ崎周辺施設整備基本計画》

1 計画地敷地図



現況写真

①全景



②計画地周辺



②大正後期の敦賀港



③



⑤



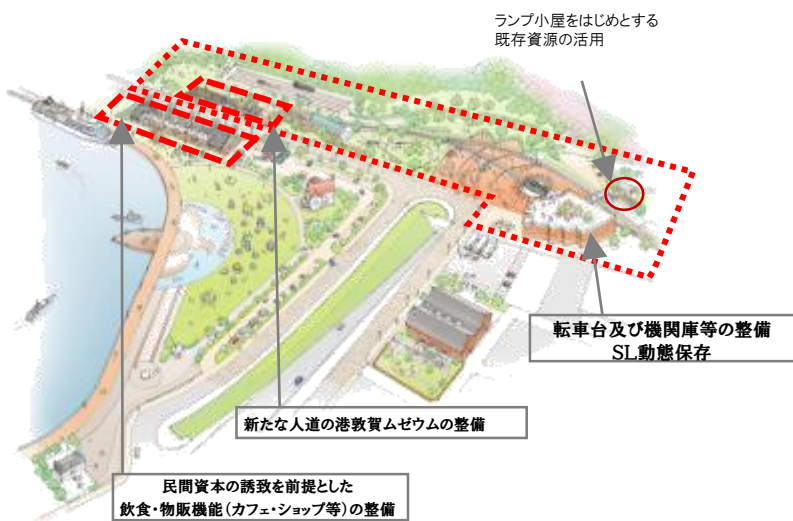
④



⑥



2 計画地周辺の整備《金ヶ崎周辺施設整備基本計画》



(3)人道の港敦賀ムゼウムの整備方針等

- 市民が気軽に利用できるとともに、学習旅行等、団体観光客を十分に受け入れられるようにする。
- エリア内の既存施設と役割分担し、相乗効果を生み出す。
- スムーズな動線でストーリーに連続性を持たせるとともに、時系列でテンポ良く、解りやすく伝えられるようにする。
- シアター等、見応えのあるコンテンツを整える。

(4)鉄道遺産の整備方針等

- ランプ小屋や軌道等、エリア内の既存設備を有効活用する。
- 市内にある眼鏡橋等の鉄道遺産や北陸本線トンネル群等、市外の鉄道遺産とも連携し、回遊性を生み出す。

◆ 転車台と車輛の動態展示(福井県で検討)

- 福井県では平成29(2017)年度に、金ヶ崎における転車台と再生エネルギーによるSLの動態展示の活用可能性調査を行った。
- 調査の結果、敦賀駅の転車台は一部分の部品を新品に交換すれば再利用できることや、太陽光パネルの設置で発生するエネルギーにより、客車を牽引したSLを330mの区間で走行させることが可能なことが明らかとなった。

(5)回遊性の創出

①エリア内

- 金ヶ崎周辺エリアを面的に整備し、一体感を形成する。
- 金崎宮から見下ろすと明治後期から昭和初期の敦賀港の姿がわかるような仕掛けを施す。

②中心市街地へ

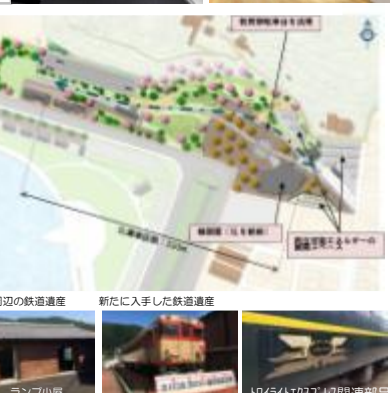
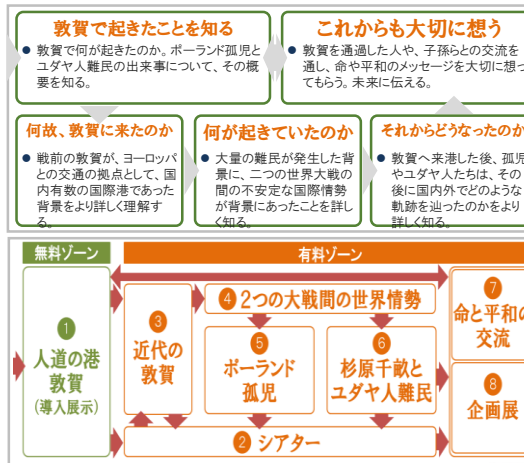
- ユダヤ人難民が敦賀港から敦賀駅まで通ったルートを顕在化。

③さらに広域へ

- 北陸本線トンネル群等、近隣の関連自治体とも連携し、広域の回遊性を生み出す。



図：ユダヤ人難民の主な推定移動ルート(左)旧地図(右)現在の地図



(1) 基本的な考え方

- 既存資源・取り組みの有効活用
- 古きよき敦賀の可視化
- 人道の港ブランドの確立

(2) エリア全体で行う事業

- 人道の港敦賀ムゼウムの移転・拡充
- 新たな鉄道遺産の整備と活用
- 物販・飲食機能の整備(民間活力導入)
- エリア内外の回遊性向上

官民連携事業の概要

事業①官民連携施設の整備

・敦賀ノスタルジアム(ノスタルジー+ミュージアムの造語)を景観コンセプトに、当該エリアに不足する**飲食・物販機能の創出による魅力向上を図るため、民間活力による施設整備を行う。**

事業②エリアマネジメントの実施

・エリア全体のサービス向上及び管理経費等の効率化を図るため、**民間事業者によるエリアマネジメントを実施する。**

⇒民間事業者の創意工夫をフル活用し、**だれもが行きたくなる、楽しめる空間形成を行う事業である。**



▼対象エリア・施設の概要(調査対象施設)

施設名称	概要/管理経費(千円/年) 管理経費合計 83,600千円	施設種別	用地/施設所有者	施設等の管理方法
I 金ヶ崎緑地公園	・敦賀港シンボル緑地/4,500	港湾緑地	県/県	指定管理(市)
II 赤レンガ倉庫	・中核観光拠点/36,000	商業観光	市/市	指定管理(民)
III 鉄道資料館	・鉄道のまち敦賀の発信施設/3,100	観光交流	県/市	委託
IV 休憩所(現ムゼウム)	・ポーランド孤児、ウダヤ難民受入時の敦賀人の功績を展示/8,000	展示・休憩	県/県	指定管理(市)→委託
V 新人道の港 敦賀ムゼウム	・観光交流センター/32,000(計画中) ・ノスタルジー×人道の発信拠点	観光交流	県/市	指定(予定)
VI 官民連携施設(新規)	・商業地域・臨港地区 ・約3,000㎡・容積率 400%	飲食物販	県/民	BOO
VII 鉄道遺産活用施設(整備予定)	・転車台及び機関庫等の整備 ・SL動態保存等	体験観光	民/民	未定

事業・施設の課題

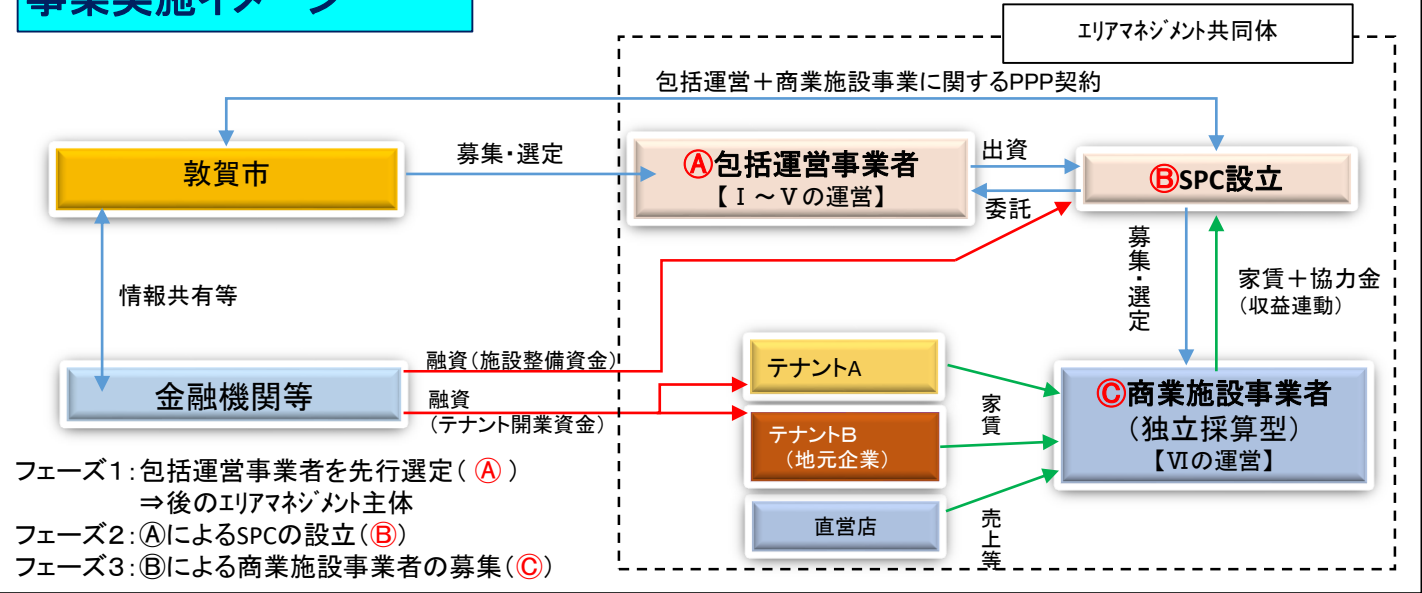
【観光拠点としての課題】

- ・本エリアは市民が憩い、観光客が楽しめる場所となること、人道の港ブランドを形成する拠点として、**敦賀の象徴となる整備が求められている。**
- ・新たに商業施設を整備することにより、本エリア内の施設等運営管理者がさらに増えることとなるため、**多様なプレイヤー間の円滑な連携体制の構築を念頭に置いた事業の推進が必要**である。
- ・自由度が高い広い芝生広場空間を有していながら、**ソフト事業のプレイヤーが不足**しており、エリアの持つポテンシャルを十分に活かしきれていないため、民間の柔軟な発想と実行力の導入により、**収益事業として継続性の高いソフト事業の充実及び多様化が必要**である。

【本市全体の課題】

- ・公共施設等総合管理計画(2017年)に基づく**施設統廃合を進める中で実施する新たな施設整備**であることから、公共投資を抑制しつつ、**公共施設の総量を維持・縮小する事業を成立させることが必須**である。

事業実施イメージ



事業実施による金ヶ崎周辺の将来像

(1)長期の地域インフラ包括運営事業+商業機能創出のモデルケース化

- ・地方都市において、観光拠点における賑わい創出を図る上で、商業店舗としてのビジネス、地域の歴史文化の広報など官民の役割分担がある中で、15年以上の長期にわたり、**観光拠点一帯を包括的に1者に管理を委ね、社会環境の変化を踏まえながら新たな店舗開発を段階的に行う手法**を取り入れ、本市のみならず全国への波及を目指したスキーム構築を目指す。
- ・さらに本事業は、県・市・民間という異なる管理主体・管理方法による複数の公共施設等を一括して業務委託等に付す手法を目指している。

(2)敦賀への来訪目的=「金ヶ崎」

- ・敦賀ノスタルジアムという景観コンセプトのもと、**官民がそれぞれの役割を認識しかつ遂行できる事業スキームを構築し、実行に移すことでエリアとしての魅力(景観等の見た目による魅力とその空間での「過ごし方」等を含めた「コト」の魅力等)を高め、来訪者の目的地化を図る(「とりあえず金ヶ崎」)。**
- ・そのために、計画初期段階から民間事業者の創意工夫を積極的に活用でき、かつ中・長期のエリア運営に至るまでの官民連携手法について検討する必要があるとともに、**集客力の高い魅力的なサービスと事業採算性の両立**を検討する必要がある。

事業化スケジュール

